

むきあう・ささえる

認知症

総人口が減少する一方で、高齢者の割合は増加傾向にあり、これに伴って認知症高齢者の数も増加すると見込まれています。そういった中、令和6年1月1日に施行した認知症基本法において、9月が「認知症月間」、9月21日が「認知症の日」と定められました。誰もがなりうる認知症は特別なものではなく、人生の一部。今号では、認知症について特集します。

〓市高齢福祉課 ☎0994-31-1116



認知症支援のマスコットキャラクター「ロバ隊長」



将来のために 早めの受診を

認知症とはどのようなものなのか。精神医療を専門とする楯林先生に聞きました。

認知症では、
記憶障害（覚えられない、すぐに忘れる）
見当識障害（季節・時間・場所
が分からない）
理解・判断力の障害（思考のス
ピードが遅くなる、混乱しやすい）
実行機能障害（計画を立て、実
行することができなくなる）
などの認知機能の低下によって、

□物忘れが多くなる
□同じことを何度も口にする
□探し物が増える、物をなくす
□普段していたことが億劫になる
□「でも」「だから」といった言
い訳が増える

といった症状が現れます。その他にも様々な初期症状があります
が、これらは年齢を重ねていくと
自然に起こるものでもあります。
認知症との違いは、この変化が緩
やかか急激かどうか。穏やか・健
やかに衰えを迎えるための進行予
防は不可欠ですので、まずは早期
の診断が第一です。

むきあう・ささえる - 認知症 -

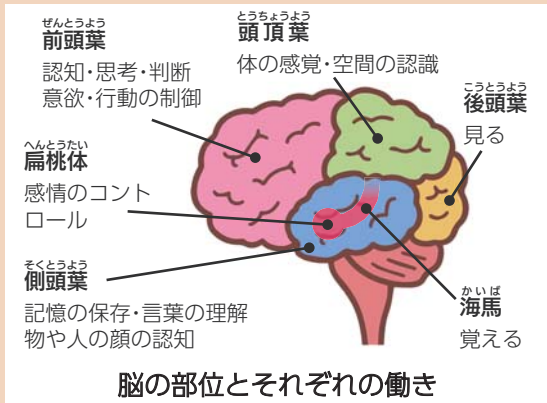
また、65歳未満で認知症が発症
した場合は「若年性認知症」とな



なてばやし よしひろ
楯林 義寛 氏
桜ヶ丘病院 院長
鹿屋市認知症サポート医
鹿屋市認知症初期集中支援チーム検討委員会座長

ります。会社での失敗が増えたり、
簡単な業務ができなくなったりと
いったように、認知症が疑われる
場合は検査をおすすめします。初
期症状であれば根本治療ができる
可能性もありますし、症状を抑え
ることも可能です。また、医療技
術は日進月歩。薬や治療法なども
日々進歩しており、将来新たな治
療法ができる可能性もあります。
元気で長生きするためにも「怪
しい」と感じたらすぐに病院を受
診しましょう。また、病院の受診
にハードルの高さを感じる場合
は、地域域包括支援センターや「オ
レンジカフェ」、「オレン
ジのまど」といった窓
口に相談してください。

「脳」の働きと認知症



脳の部位とそれぞれの働き

脳は、人間の活動をコントロー
ルする司令塔です。

記憶（覚える、思い出す）
感覚（見る、聞くなど）
思考（理解、判断など）
感情（喜び、悲しみなど）
体の調整（呼吸、睡眠、体温など）
といった、生きていくために必要
なほとんどの働きを脳でコント
ロールしています。

認知症とは、様々な要因によっ
て脳細胞が死んでしまうなどして
脳の働きに不都合が生じ障害が起
こった結果、約6か月以上生活に
支障が出ている状態を指します。

古い認知症観

（他人ごと、他者視点、問題重視、疎外、絶望）

- ①他人ごと、なりたくない、目をそらす、先送り
- ②認知症だと何も分からない、できなくなる
- ③本人は話せない／声を聞かない
- ④おかしい言動で周りが困る
- ⑤危険重視、過剰制限しても仕方ない
- ⑥周囲が決める
- ⑦本人は支援される一方、負担の存在
- ⑧地域で暮らすのは無理
- ⑨認知症は恥ずかしい、隠す
- ⑩暗い、萎縮、あきらめ、絶望



新しい認知症観

（わがこと、本人視点、可能性重視、ともに、希望）

- ①わがこと、お互いさま、向き合う、備える
- ②わかること、できることが豊富にある
- ③本人は声を出せる／声を聞く
- ④本人が一番困っている。本人なりの意味がある
- ⑤あたりまえのこと（人権）重視。自由と安全のバランス
- ⑥本人が決める（決められるように支援）
- ⑦本人は支え手でもある。経験者として大切な存在
- ⑧地域の一員としてともに暮らす
- ⑨認知症でも自分は自分、自然体でオープンに
- ⑩楽しい、のびのび、あきらめず、希望がある



「認知症地域支援推進員活動ガイド（2023年3
月版）」から引用

主な認知症の種類と症状

認知症は、知的機能低下によっ
て生活障害が起こる病気の総称
で、いくつかの種類があります。
それぞれ原因や症状が異なり、治
療により治癒したり症状が改善し
たりするものもあります。

レビー小体型認知症

「レビー小体」という異常なたんぱく
質が脳皮質や脳幹に蓄積し神経細胞を
破壊することで、神経をうまく伝えられ
ずに発症。はっきりとした幻視や、手足
の震えなどのパーキンソン症状が出る。

前頭側頭型認知症

前頭葉と側頭葉の萎縮によって発症。
特徴として、人格が変わる、万引きや
無銭飲食といった反社会的行動を起こ
すなどの症状が出る。記憶障害は目立
たない。

アルツハイマー型認知症

異常なたんぱく質が脳の神経細胞に蓄
積して神経細胞を破壊し、脳が萎縮する
ことで発症。親しい人を忘れるなどの記
憶障害や、ここがどこか、今いつなのか
分からない見当識障害などが起こる。

脳血管性認知症

脳梗塞や脳出血などで血管が詰まっ
たり出血することで、脳細胞に酸素が送ら
れなくなり神経細胞が死んでしまうことで
発症。物忘れがあっても判断力の低下は
見られないなど、症状がまだらに現れる。

新しい「認知症観」

今年1月1日に「共生社会の実
現を推進するための認知症基本
法」が施行されました。がんや脳
卒中といった病気についてはすで
に基本法が成立しており、認知症
も同様に誰にとっても身近な問題
であるといえます。

この基本法は、一人ひとりが個
性と能力を十分に発揮し、尊重し
つつ支え合う社会に向けた方針等
が示されています。

このような共生社会の実現のた
めには、認知症の人を含めた全員
が認知症に関する正しい知識を持
ち理解することが不可欠。「痴呆
（症）」と呼ばれていた時代にはマ
イナスイメージが付きまとい、自
身が認知症であるということを受
け入れられずに病院の受診が遅
れ、適切な治療が受けられなかつ
たケースも多くありました。

しかし、認知症は誰もがなりう
る病気であり、自身が向き合うと
同時に、周囲の意識を「新しい認
知症観」へアップデートすること
で、認知症の人を含めた人々がよ
り生活しやすい共生社会につな
がっていきます。